

第1回塩竈市総合教育会議 概要報告

1 日時 平成28年10月7日(金)
開会 13時30分 閉会 15時15分

2 会場 塩竈市立第三中学校 会議室

3 出席者 塩竈市長 佐藤 昭
塩竈市教育委員会
教育長 高橋 睦磨
教育長職務代理者 柴田 仁市郎
委員 太田 忍
委員 池野 暢子
委員 山田 達磨

(事務局)

政策課長	相澤 和広
教育部長	菅原 靖彦
教育部教育総務課長	渡辺 常幸
教育部学校教育課長	遠山 勝治
教育部生涯学習課長	本田 幹枝
教育部市民交流センター館長	伊東 英二
教育部教育総務課総務係長	菊池 亮

4 協議事項 議題1 塩竈市教育振興基本計画の策定について

5 概要

- 開会
- 佐藤市長あいさつ
- 出席者紹介
- 協議事項

議題1 塩竈市教育振興基本計画の策定について(事務局説明)

計画の施策体系案について、市長、教育委員、と協議。

【主な意見】

【施策1 生きる力を育む教育の充実】

〈柴田委員〉 取組方針にある「わかる・できる」に期待している。そこに「おもしろい」も加えてほしい。子どもたちはおもしろいとやってみようと思う。おもしろい授業は学ぶ意欲につながるのではないか。

〈高橋教育長〉 新学習指導要領の議論の中では、アクティブラーニングの考えが示されている。

それぞれの児童生徒が主体的に自ら学ぶ、そのためには、おもしろいという感覚は必要となってくる。

〈太田委員〉 学びに向かう力を子どもたちに付けさせたい。取組方針にある望ましい学習ルールとはどんなルールになるのか。

〈遠山学校教育課長〉 「ちゃんと話すことを聞くことができる」「自分の意見が言える」などの基本的なことについて、小中一貫教育を通じて、必要最低限のルールを設けていきたい。

〈高橋教育長〉 先生たちがどのくらい子どもたちが理解しているか知ることが大切。学習に深みを持たせることも必要である。「しおがま学びスタンダード」として全体のルールを取りまとめているが、さらに徹底させていきたい。

〈山田委員〉 学力調査は他との比較ではなく、どこがわからないかを確認するものではないのか。

〈遠山学校教育課長〉 これまで学力調査は平均点で比較していた。どちらかという一人ひとりに目を向けることができなかった。そのため、今年から取組が始まっている小中一貫教育では、ひとりも見捨てない教育、一人ひとりの発達にあわせた教育をしましょうとしている。ユニバーサルデザイン、アクティブラーニングという新しい概念を取り入れ、子どもたちが授業に参加する状況をつくるようにしたい。まずは、授業の満足度を見て、その次に平均正答率を見ることにシフトしたいと考えている。

〈山田委員〉 「わかる、できる、おもしろい」授業に子どもたちを導くことが大切。授業がわからないと勉強する意欲が出ない。子どもたちがどこでつまづいているが把握することが必要ではないか。

〈柴田委員〉 秋田など学力が高いと言われているところは、少人数指導できめ細かい取組をしている。学力学習調査の平均点で評価するのはあまり意味がないのではないか。

〈高橋教育長〉 小学生のころから目標を持たせることが大切。塩竈においては、幼保小の連携がうまく機能していない。「座ってられない」、「話をちゃんと聞くことができない」子どもが多く、そういう子どもたちが普通学級にいる現状がある。そのため、黒板のまわりに掲示物を張らないといったユニバーサルデザインの考えを導入していきたい。

〈太田委員〉 アウトリーチなど感動を与える体験をもっと子どもたちに経験させたい。先生の方考え方や心くばりで子どもたちの表情も変わってくる。先生の資質で変わることも多い。

〈山田委員〉 読書は大切であるが、学校ではどのような取組を行っているのか。

〈遠山学校教育課長〉 各学校では、朝読書に取り組んでいる、また、ボランティアや教師による読み聞かせなど本に親しむ時間を設けている。

〈高橋教育長〉 実際には何冊読んだかといった量の問題になっているが、ある学校では、読んだ本の感想を発表するなどの取組も行っている。

〈池野委員〉 「早寝、早起き、朝ごはん」の取組は非常に大事で、生活習慣が学力にも直結すると思う。

〈佐藤市長〉 計画の成果指標には、「早寝、早起き、朝ごはん」の取組を示すことができる指標が必要である。

〈高橋教育長〉 小中一貫教育との関連で、これからは、幼保小の連携事業にも力を入れていきたい。小学校入学前から、保育所、幼稚園段階で、子どもたちに目をかけ、スムーズに小学校の生活に入っていくことはできるスキームを構築したいと考えている。

〈池野委員〉 よく言われる「中一ギャップ」が起こる原因は何があるのですか。

〈学校教育課長〉 学習面で言えば、小学1・2年生で授業についていけない割合は約5%、3・4年生で10%と言われている。1・2年生では、具体的なもので、勉強が理解しやすいが、3・4年生からは抽象的な概念が出てくるため、つまずきの始まりは9・10才と言われている。さらに、新しい環境での学習や生活への不適應を起こす「中一ギャップ」へとつながっていると感じる。小中一貫教育では、活躍と交流をキーワードに集団を活性化させ、まずは、学びの連続性を意識した取組を行っていききたい。

〈高橋教育長〉 「中一ギャップ」が起こるのは、子どもたちがいろいろと不安を抱えているところに原因があるので、小中一貫教育では、乗り入れ授業で小中の垣根を解消し、少しでも不安を取り除いていきたい。また、いじめの問題についても、生徒指導においては、中学の先生はシビアなところもあるので、連携することで良い方向に行くと考えている。

〈山田委員〉 いじめの兆候を見つけたら、言える環境づくり大事。オープンにできる環境が必要である。

〈佐藤市長〉 教師の資質も大切で、計画には、そのあたりを示すことができる成果指標を考えていただきたい。先生たちの研修、自己啓発の時間も必要である。素晴らしい体験が子どもたちの学習意欲を掻き立てるので、その辺を示す成果指標も示してほしい。また、生活習慣についても同様である。いじめの問題について、成果指標が示されていない。このような児童生徒が学校に来たい思われる学校であるべきで、その辺を推し量る成果指標を検討願いたい。

[施策2 学習環境の充実]

〈柴田委員〉 ICTの普及はどうなっているのか。

〈渡辺教育総務課長〉 PCルームでは一人1台の環境を整えている。またタブレット端末を各校6台整備しており、無線LAN環境にある教室では、インターネットを使ったり、画像をみたり、カメラ機能を活用するといった形で授業に使っている。

〈池能委員〉 具体的にはタブレット端末はどういう使い方をしているのか。

〈渡辺教育総務課長〉 インターネットを介した調べものであったり、学習支援ソフトの活用であったり、または、体育の授業では、例えば、跳び箱のフォームを動画で取って見たりと様々な活用をしている。しかしながら、活用する教師側のスキルも求められていると思う。

〈山田委員〉 理科備品は充実させてほしい。

〈渡辺教育総務課長〉 理科備品については、国庫補助制度を活用しながら、年次計画のもと整備していきたいと考えている。

〈池野委員〉 昨今の夏の猛暑を考えるとエアコンの整備は必要ではないか。

〈佐藤市長〉 エアコンの整備には多額の予算が必要となる。また、ランニングコストの問題もあり、非常に難しいと感じている。

〈池野市長〉 暑さで具合が悪くなる児童生徒は出てこないのか。

〈高橋教育長〉 ペットボトルであったり、氷であったりと学校でもすぐに対応できるように用意している。

〈佐藤市長〉 給食センターについて、今後どう取り組んでいくのは示すことは必要ではないか。いつまでに設計を終わらせるとか、建設地であるとか目安を示す必要があるのではないか。

【施策3 地域社会との連携強化】

〈佐藤市長〉 先生たちも積極的に様々な行事に顔を出していただきたい。学校現場ではない場所での先生と子どもたちの交流は非常に大切である。成果指標の目標値は物足りないのではないか。

〈渡辺教育総務課長〉 目標値については、再度検討したい。

【施策4 生涯学習の推進】

〈山田委員〉 多賀城の市民図書館は開館時間も長いし、若者の利用も多い。

〈本田生涯学習課長〉 多賀城市民図書館は指定管理者制度を導入し民間が運営していることもあり、確かに開館時間も長い。しかしながら、価値観の多様化と言いますか、有りがたいことに塩竈市民図書館の方が、居心地が良いと言って下さる利用者もたくさんいます。このようなことから差別化を図りながら、時代の流れを見ながら、様々な取組を行い、市民の皆さんが利用しやすい施設づくりを進めていきたいと考えております。

〈佐藤市長〉 壱番館1階の子育て支援センターは、最初、土日は休みでした。土日も開館することに苦労した記憶がある。土曜日は父親の利用も多く、さらに二市三町からも利用者が来るようになった。このような成果を踏まえて、土日開館を委託することで開設することができた。役所のハードルは高いが、市民の視点が大事である。多賀城図書館は新しく、うらやましいが、質の部分で勝負していきたい。成果指標も目標値を高く設定して、教育委員会には取り組んでもらいたい。

【施策5 歴史の継承と文化の振興】

〈佐藤市長〉 Web ミュージアム「文化の港シオーモ」は素晴らしいHPなのでもっとPRが必要である。成果指標の目標値はもっと高く設定すべきである。

【施策6 生涯スポーツの推進】

〈柴田委員〉 学校の部活動においても人数が少なく、部活動が成立しない状況もあると聞く。そうすると学校の垣根を越えた総合型地域スポーツクラブも必要ではないか。塩竈市では体育協会が受け皿となる要素もあるのではないか。部活動の外部指導者の活用についても塩竈は進んでいる。

〈山田委員〉 学校開放は簡単にできないのか。

〈本田生涯学習課長〉 体育館の開放は行っている。もっとPRをしていきたい。

〈佐藤市長〉 教育長へは武道場について検討するようお願いしている。中の島公園ではトルリーグができる環境を整備するために、県港湾課とも協議している。千賀の台にある教育財産についても、普通財産に移し、何らかの整備を考えていく必要がある。

〈高橋教育長〉 環境整備については、成果指標、目標値を示す必要がある。